

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和7年度第2回）議事概要  
日 時：令和7年5月30日（金）10：30～11：30  
場 所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用  
出席者：間野博行理事長、大島正伸理事、平沼直人理事、山内英子理事  
本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、瀬戸中央病院長、土井東病院長

## I. 前回（令和7年度第1回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を平沼理事と近藤監事に依頼。

## II. 審議事項

### 1. 安全保障輸出管理体制について

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・該非判定責任者は研究者側で行うが、研究資源を共同研究先とやり取りする際は、知財も関わってくると思う。知財の MTA と安全保障のチェックがワンストップで、研究者側で同時にできると良いと思う。安全保障輸出管理体制図では、研究管理部に産学連携・知財管理室も入っているが、ワンストップでできる方向は考えているのか。
- 研究管理部に産学連携・知財管理室があるので、相談できる体制の運用を想定している。
- ・この体制の場合は、人や物の出入り時に該非判定をする体制だと思うが、他の NC では、共同研究に関しても、論文発表時に特定の国が共著に含まれていないと出てきたが、共同研究体制についても、事前に報告して該非判定をするシステムになるのか。
- 論文の共著や体制については、現状の体制でも確認することを前提にしている。これから規程と細則を詰めていく。
- ・担当部門の取りまとめ責任者について、コンプライアンス室長となっているが、センター全体のコンプライアンスの取りまとめをする室長と理解しているため、責任者で関与すると負担が重いと思う。また、研究による発生リスクを安全保障の観点からチェックをするため、コンプライアンス室長が研究について一定の経験があれば良いが、考慮すべきと思う。
- 輸出管理担当部門の取りまとめ責任者として、コンプライアンス室長を置いているが、各部門の実務については、各部門でこれまで通り行う。コンプライアンス室長を置く理由は、安全保障輸出管理について、研究に限らずセンター全体を広く管理し、外為法の遵守を徹底する必要があるためである。研究内容や技術的なことについては、副責任者の研究支援センター長がサポートする体制になっている。
- ・9 ページの安全保障輸出管理に関するセンターの対応状況③の課題に関してどのような対応と配慮をしたのか。
- 判断に迷う場合、研究管理部で相談に応じているが、各担当部署がバラバラになっていたことが今回の状況に繋がっている背景である。相互の情報共有については、12 ページの輸出管理担当部門を通してまとめることが必要である。現状、確認する内容の粒度に差がある点も規程・細則を定めて対応をしていく。

## III. 報告事項

### 1. 国立がん研究センター理事長の就任会見

資料に沿って報告された。

### 2. 理念・使命・スローガンの変更について

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・「がん医療を提供する」から、「がん医療・がん予防法を届ける」と変更になっていることに関して、理事長の思い入れを感じた。
- ・がん予防が入ったことは非常に大きい。日本の健康保険は、がん予防に関して費用が賄われてないことが問題点と思うが、がん予防に対しても診療報酬がつく働きかけは今後あるのか。
- 予防を入れたのは、研究・実装レベルでもがん予防は大きく変わっており、おそらく 10 年間で最も大きく変わる領域だと考えている。新しいがん予防に関しても、当センターが中心となり進める気持ちを込めて言葉を入れた。がん予防が診療報酬に入っていくことに関しては、科学的根拠に基づいた提言をしていきたいと考えている。
- ・がん予防に関して、20 年前にがん対策基本法ができる頃に話題が出たが、大きく取り上げられていなかった。この 20 年間で日本の医療界が、がん医療の底上げに力を入れてきたことが大きな力になっている。2 人に 1 人ががんになると言われているが、がんになるまでは自分ごとではないと周りを見て実感している。早期にがんを発見することで、医療費は削減できるといった経済的な観念のこと等も含めて、がん予防の研究と実装を進めていただきたい。また、ドラッグラグドラックロスが指摘されている時代の中で、臨床研究部会での臨床研究の在り方で、当センターが果たしていく役割が大変大きいと思う。
- がん予防は大きく変わる分野である。社会に向けた情報発信もメディアと一緒に進めていきたい。
- ・世界中で研究が安心してできる場所を求めている状況が急速に進んできている。当センターは、研究者の受け入れに対してどのように考えているのか。
- ・毎年 1 度海外に行き、日本人の留学生達を集めてミーティングを行っており、今年も行う予定である。また、MoU を締結している施設と人事交流も行っていき、日本人の留学生を受け入れるだけではなく、海外の研究者も受け入れることも積極的に行っていく。

#### 3. 政府の会議状況

資料に沿って報告された。

#### 4. 広報実績等

資料に沿って報告された。

#### 5. 令和 7 年度の資金運用計画について

資料に沿って報告された。

#### 6. 雇入時の健康診断等にかかる費用の負担について

資料に沿って報告された。

#### 7. 投資委員会結果

資料に沿って報告された。

#### 8. 4 月医業件数等

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

- ・目的積立金について 1 年間協議が行われた影響で、令和 5 年度決算が、令和 7 年 4 月 23 日に承認をされた。(目的積立金は全額不承認)
- ・検診センターの収益が減少しているが、収益増加の対策についてと、雇入時の健康診断に関して、検診センターで健康診断を行うことで、職員も検診センターの設備について理解ができ、外部にも進めやすくなると思うが、今後の活用について考えているのか。

-検診センターの収益が減少していることに関して、特定の企業が減少したことが要因であり、営業活動をしていく。収益増加の対策は、がんに特化した検診であるため、2日間に渡る検診が基本である。収益性としては高いが、2日間に及ぶため来られにくいこともあり、今後は様々なオプションを想定していき、柔軟性のある検診も必要だと思う。職員の検診については、現在は外注しているが、検診センターの活用をすべきかと議論している。